広報 かじき

全ご家庭に，もれなく配布

第191号

46．12．6発行

発行　鹿児島県姶良郡加治木町役場

編集　総務課文書係

印刷　吉屋印刷所

年の暮れ

北風の　なかに呼びとめ
立ちばなし　牧笛郎

▽…とうとう十二月「あっという間の年の暮れ」といった感じ。この月は、一年間のしめくくりと新しい年を迎える準備をふくめてお互いになんとなく気ぜわしい月

▽…年に一度の旧交を暖め、友情を示しあう年賀状は二十二日までには出したいもの。正しいあて名と郵便番号をぜひ。

▽　年末年始は人の心もついゆるみがち、お出かけの際は戸じまりと火の始末を完全に。とくに飲酒の多い時期、飲酒運転をしないよう、みんなで厳しく見守ろう。

▽みんなそろって明るいお正月が迎えられるよう「歳末たすけ合い運動」に協力し合いましょう。

ひなたぼっこで，正月のつるし柿つくり　……辺川の小宮路盛助さん宅で

■　メ　モ　　人口……18.833　　男……8.816　　女……10.017　　世帯……5.803（11月1日現在）

最近の町政から

47年度発足をめざす

広域市町村の整備問題

鹿児島県内の各地区では広域行政を推進して、地域の発展をはかることとしました。ところが、姶良郡西部の四ヵ町は、姶良伊佐地区に加入を見合わせていたため、ヒョッとすると取り残される心配がでてきましたので、さきごろ以来四ヵ町の町長は、早く音頭をとって鹿児島市地区の協議会を開くよう要請していました。

十一月八日、自治会館に鹿児島市、串木野市、垂水市ほか、日置郡、鹿児島郡、喜入町はじめ加治木町など三市十六ヵ町村長が集って、協議会を開き昭和四十七年度を期して自治省の了解を求め、広域市町村の行政の一部を組合組織で行ない、おたがい市町村の発展を図ることを申し合わせました。

さしあたり鹿児島市、串木野市垂水市と加治木町の企画課長を幹事として準備をすすめることとしました。すでに西部姶良郡の四ヵ町は、いろいろ事業を共同でやっていますが、もっと広い範囲で今後ものごとを考え、諸事業をやることになります。

新空港の開設と加治木駅の今後

新空港が開設されると本町の交通事情はいっそう困ったことになりますので、過日、町長・議長や商工会長は、鹿児島鉄道管理局に行って、加治木駅の客車の増発着を陳情しました。また県の首脳部にも協力方お願いしました。

その結果、おそらく来年四月から急行二、三本その他の停車や増発が可能となる見込みです。バスやタクシーをどうするかーが、また問題のようです。

敷地買収は順調に進む

町総合グラウンド

当町では、本年度中に総合グラウンドを造ることを計画し、その用地をどこにするか検討中でした最後的に便利なところーということで、木田地区の汐入の田んぼ（岩原部落の運動場、南五十メートル付近）約四・五ヘクタールに決定。十一月中旬に地権者の集り合いを願い、町長、助役などと誠意ある交渉をいたしました。

地主さんがたも、こころよく応じてくださいましたので、買収交渉は円満に進むことになりました町ではいろいろと手続きをして、来年の春までには埋め立てをすませたい考えで、地主さんがたのご協力に感謝しています。

他県からの行政視察

このごろ本町には、各方面からの行政視察者がふえていますが、さる十一月六日には熊本県の町村長や役場職員三十名あまりが来訪し、半日がかりで視察や一般行政とくに国民年金の納付事務などについて、町長や住民課の係員からの研修を熱心にうけました。

広域消防本署の建設用地

ようやく買収・決定

姶良郡西部の消防本署は、本年四月加治木町ミロク前に建設を予定して、土地の買収にかかりました。だが価格の点で行きづまり、放置もできないので、他に用意して四ヵ町の会議に諮りましたが、全員の納得が行かず、建設があやぶまれていました。

しかし、町は第一の予定地の地主さんに、もう一度お願いすることとし、各方面の力もおかりして無理にご相談しましたところ、十一月末になってやっと交渉がまとまりましたので、年内には本署着工のはこびになると思われます。

地主さんがたのご協力を深く感謝しています。場所は戸高鉄工所とホテル阿里沙の間の約三十アールです。

一億二千万円で着工

上水道の第二次拡張計画

加治木町の上水道の第二次拡張計画が、いよいよ一億二千数百万円で千代田工業の手で着工されました。

上木田の鈴玉の田んぼの中に深井戸をほり、その水を隈姫神社裏の山の上にあげ、木田地区一帯をおもに配水するもので、完成するとこと十年やそこらは、水の心配はないものとされています。

新水源地（上木田・鈴玉）

悩んでいませんか
人権擁護委員に相談を……

ことしも人権週間【十二月四日～十日】が展開されています。本年度の重点目標は、「老人と人権」「児童と人権」の二つが取り上げられています。

これは繁栄する社会の蔭で、家族からも見離され、病気や貧困または孤独にあえいでいる老人が、だんだんふえつつあるという現実に際して、わたくしたちは長い人生を社会の発展に尽くされた老人に対し、その余生に希望と安息を与えてやるのもまた社会全体の責任と思い、あたたかい手を差しのべようというものであります。

また「児童と人権」についても最近は出かせぎや性道徳のみだれによって遺棄されている乳幼児や児童が、意外と多くなりつつあるのは事実です。

たとえ子どもであっても、幸福に生きる権利はあります。わたくしたちは、親の勝手によって子どもの人権を侵すことはないか―もう一度よく考えてみましょう。

あなた自身、またはあなたの回りに、これらの問題で悩んでいるかたは、ぜひこの機会に人権擁護委員にご相談ください。

町内仮屋町（柳田）の日野良兼さんが、当町の人権擁護委員ですさんが、当町の人権擁護委員です

戸籍相談シリーズ

問　二十四歳の女性です。結婚するという甘言にだまされて男児（生後八カ月）まで生みましたが相手の男性は私との結婚を承知しないばかりか、子どもの認知もしてくれません。認知させる方法はないでしょうか―

（悩める一女性）

答　結婚関係にない男女間に出生した子を「嫡出でない子」または「非嫡出子」といい、非嫡出子は父に認知されなければ法律上の父子関係は生じません。

認知は、嫡出でない子の事実上の父を定める制度ですが、これには①父が自発的に自己の意思でなす任意認知②母の胎内にある子を①と同様に父がなす胎児認知③なんらかの事情で生存中にすることができない場合の遺言認知④子の請求により裁判によってなされる裁判認知（強制認知という）⑤家庭裁判所の審判によってなされる審判認知があります。

あなたの場合は、父が自発的に認知してくれないのでしたら④の強制認知を求めるほかありませんが、裁判上の認知は調停前置主義といって、本裁判にかける前にまず家庭裁判所に調停の申立てをしなければならないことになっていますので、その申立てをされるとよいのです。

調停で当事者間に合意が成立すると、家庭裁判所は必要な調査を行ない、合意が正当と認められるときには、合意に相当する審判を行ない、二週間の異議申立て期間を経過すると確定判決と同一の効力が認められることになります。

手続き関係その他、詳しいことは法務局または町役場の戸籍係におたずねください。

遺言ゆいごん

遺言とは―死後の財産処分を書面に明確にして、遺産をめぐる家庭悲劇を未然に防止する制度です。つまり、遺言は法律に先んじて適用され、その内容どおり遺産は分配されることになるのです（ただし、遺留分をこえないこと）。

ところで新憲法の基本理念を個人の尊厳と両性の本質的平等とされたことから、旧法の家督相続制度にも重大な改革が加えられ、西欧諸国と同様の「諸子均分相続」制度が採用されました。

家督相続制度下では、法律で相続人の順位が明確にされていた関係上、あまり遺産をめぐる紛争は生じなかった訳ですが、現行法のもとでは遺言で遺産の処分を明確にしなかったため、共同相続人で①どの財産を②だれに③どの程度分配するかについて話し合いがこじれ、いがみ合うという非劇が数多く生じています。

このようなことから、同じ法制をとる西欧諸国では、早くから遺産の適正な分配を行なうために、必ず遺言をするという社会慣行が広く行なわれており、遺産をめぐるトラブルは、きわめて少ないと言われています。我が国でも遺言制度が広く国民に定着して、より明るい社会が、きずかれることを期待するものです。

遺言の方式

遺言の方式には自筆証書、公正証書、秘密証書の三つがあります

①…自筆証書による遺言書は、全文と日付を全部、自筆で書いて署名押印すればよいわけです。が注意すべき点は、内容を訂正した場合その箇所に印を押し、欄外または末尾に、何行目の何字以下を何字削除・加入したと記入し、そこに署名しなければなりません。また押印する印鑑は後日、紛争を生じないよう実印を使用することが望ましいことです。なお、遺言書は裸でもかまいませんが、できたら封筒に入れて「遺言書在中」としておくことが、望ましいでしょう。

②…公正証書による遺言は、公証人に作成してもらうもので法津上、無効となることがなく、最も確実です。公証人役場に出向くか病気のときは病床で作成してくれます。用意するものは実印と印鑑証明（六カ月以内のもの）で、証人二人が必要です。手数料は財産価格百万円以下が千六百円（他は省略）です。検認手続きも不要です。

③…秘密証書による遺言は自筆（代書でもよい）証書に署名押印して、封筒に入れ密封してから公証人に提出する封筒に日付と署名をして自分の遺言書であることを確認してもらう方法です。

なお、自筆や秘密証書による遺言は、家庭裁判所の検認手続きが絶対必要です。詳しいことは法務局、人権擁護委員、町役場の戸籍係などにおたずねください。

おかあさんのページ　ママのページ

助産婦が訪問
適切な指導を

妊娠や出産について、専門の立ち場から知識をお知らせしたり、妊娠中の栄養のとり方、赤ちゃんの育て方、家族への理解を高めるための相談など、みなさん方の家庭生活に応じた適切な指導をして

太陽の子をみんなで育てよう　シリーズ④

少しでも元気なお母さんから、丈夫な赤ちゃんが生まれるようにーということで、保健所長の指定を受けた助産婦さんが必要に応じてみなさん方のお宅を訪問します。

はじめて妊娠された方、お産に不安のある方、医師の診断を受けて貧血があるとか、むくみや血圧が少し高いーなどの注意を受けたかたたちは、遠慮はいりませんから、役場の衛生係や地区の太陽の子運動推進員に申し出てくだされば、地区の助産婦さんが無料で訪問指導に出向くように紹介してあげます。

この家庭訪問は一回、人によっては二回までは無料です。助産婦さんの訪問費用は、公費から支払っています。

みんなが、強いこどもを生み、育てるため、この制度を有効に活用されるようにおすすめします。

出生連絡票を出しましょう

生まれてから四週間（二十八日間）までの乳児を新生児といいますが、この期間の赤ちゃんは非常に弱く、死亡率も高いのです。

それは、今まで母親のおなかの中で、外からの刺激をうけないで大事に育てられていた赤ちゃんは出産によって急に環境のはげしい中で育って行くことになるので、病気に対する抵抗力がないからです。

そこで新生児についても、妊婦と同じように保健所長の指定をうけた助産婦さんが、新生児の家庭を訪問します。お母さんをはじめ家庭の人に必要な知識を教えて赤ちゃんを守ってもらおう――という意味から、訪問指導がなされているのです。

訪問は次のようにして行なわれます。まず、赤ちゃんが生まれたら母子健康手帳の中におりこまれた出生連絡票のはがきを、保健所に出してください。

そうすると保健所では、地区の指定助産婦さんが無料で、訪問指導に出向くように紹介してあげます。せっかく、このような制度がありながら、現在では出生連絡票の提出が少なく五〇パーセントにもみたないありさまです。

赤ちゃんが生まれたら、名まえはつけなくてもいいから、一日も早く出生連絡票を保健所へ送り、赤ちゃんが助産婦さんの訪問指導を受けられるようにしましょう。

まわりの人が、気をつけてやりたいものです。

検察審査員会の任務と利用

検察審査員は、衆議院議員の選挙権を有する一般国民の中から、男女を問わず毎年、各町村ごとにくじにより検察審査員の候補者を選任し、各地方裁判所および主な地方裁判所支部の所在地に設けられた検察審査会において、さらに候補者の中からくじにより選任されるかたがたです。検察審査員のくじは、候補者の中から毎年四回行なわれ、各審査員の任期は六カ月となっています。

▼検察審査会の任務▲

検察審査会の目的についてひと口にいいますと「検察行政に対し民意を反映させること」です。この目的の基盤をなしているものは民主政治の基本である「主権在民」の原理であるといえましょう。

▼審査会の利用▲

現在、警察や検察庁に告訴あるいは告発された事件が、検察官から起訴されて裁判所に送られ、公判に付されるのはその一部分で、大半はそのまま不起訴処分となって片着いています。

ところが不起訴処分を受けた人は「相手方が確かに悪いのだ。自分は大変な被害を受けたのだ」という確信があっても、いったん検察庁で不起訴処分になれば、いくら自分が被害を受けてもしかたがないとあきらめ、泣き寝入りしている人が、あんがい多いのではないでしょうか。こんな立場の人、つまり不起訴処分を受けて、その処理に対し不服である人の申出を受けていま一度その事件を審査して検察官のなした処分が妥当であるかどうかを審査する役目をもっているのが検察審査会の仕事です

▼審査会の仕事▲

検察審査会は加治木裁判所内にあります。検察審査会は、国民の中から選ばれた皆様がたの代表十一人が、法律という専門的な立場から全く離れて、違った角度から事件と取り組み、検察官から裁定記録を取り寄せ、あるいは関係人を呼んで事件を聴取し、あるいは実地見分や証人尋問などして事件を深く掘りさげ、研究精査して、検察官のなした不起訴処分の当、不当を審査し、もし検察官のなした不起訴処分が、不当であると断定された場合は、検事正に対し事件を起訴せよとの趣旨の決議書を送り、また検察官のとった不起訴処分が妥当である場合は、その旨やはり決議書を送ります。

いままでのように不服であるがしかたない……として泣き寝入りしていることなく、どしどし国民に与えられた権利の正しい行使をすることに、ちゅうちょすることなく、検察審査会にお申し出しください。手続きについての費用はいっさいいりません。

話題あれこれ

小陣が総合優勝

第10回自衛消防操法競技

町消防中央分団と同後援会の主催で第十回自衛消防操法競技大会が仮屋馬場で行なわれ、二十チーム（男十六、女四）が出場、初期消火の寸秒を競いました＝写真。

【男子の部】①垂ノ口A　②小陣A　③毘沙門B

【女子の部】①小陣　②垂ノ口　③毘沙門

【総合の部】①小陣　②垂ノ口

獲物をお年寄りに

＜加治木町猟友会＞

猟場で仕とめた獲物を、町内のお年寄りに贈ろうと、加治木町猟友会（岩沢光男会長）では、このほど狩猟大会を開き、キジやコジュケイなど四十数羽をゴッソリ町福祉課に届けました。同課ではさっそく、九十歳以上の高齢者十七人の家を訪ね、この獲物を手渡しました＝写真。

川内の恒吉ケサチヨさん（90）は「まこて、あいがてこっ、もっと長生きせんないきもはんどな、こいでまた元気が出もそー」顔は感謝と笑いでいっぱい。五回目を迎えた猟友会の明るい贈物。

ハズンダ運動会

浜村・岩原・吉原部落など家族ぐるみで

秋の取入れもすんだ十一月の日曜日、町内では浜村、岩原、吉原など三つの部落運動会が開かれました。

いちばん身近な、部落運動会とあって、どの会場も早くから大にぎわい。「こどもが大きくなって学校の運動会も長いこと見に行きません。こうして部落の運動会があると、ツイうれしくて、年も忘れて走るんですヨ…」と、ある老婆は息をはずませ、大きく笑っていました。

部落の融和を目的とする。この催しは三部落とも大成功、これからの活動がますます期待されます

特選に池田智子さん

第14回県児童生徒作文コンクール

県教育委員会主催の第十四回鹿児島県児童・生徒作文コンクールに町内の柁城小六年の池田智子さんの作文「さようなら加世田」が特選に入賞しました。

準特選児に

川原田真貴ちゃん

第十五回の鹿児島県秋の乳児いっせい健康診査に、町内から二人の乳児が入賞しました。

▽準特選児　川原田真貴ちゃん（茂・東岩原）

▽優良児　石野　武ちゃん（忍・みろく）

森山市子さんほか

県発明くふう展に入賞

県や発明協会県支部の主催の第十九回鹿児島県発明くふう展に、町内の学校から次の児童、生徒が入賞しました。

＜着想の部＞

▽理科教育協会長賞　害虫とり　加中一　森山市子

▽優良賞　回転タンス　加中三　城内シゲ子

▽同　楽しい歩道橋　柁城三　茶円さゆり

＜作品の部＞

▽優秀賞　ひもつきチューブ　柁城一　かわはらたかし

▽同　便利なホースとタライ　柁城五　草野和代

▽優良賞　てんじょうのはえとり　柁城一　はらだのぶゆき

▽同　便利なはえたたき　柁城五　向江慎一

▽入選　かさどめつきカバン　柁城四　堀之内浩一

▽同　お金の整理できる貯金箱　柁城四　瀬戸口里美

▽年賀状は12月22日まで

▽小包は12月15日までに

▽出しましょう

年賀状を出す時節となりました。準備はいかがですか。あまりおそく出しますと、せっかくの心のこもった年賀状が元旦の配達に間に合わなくなります。

また、小包も年末は、たいへんこみあいます。ふるさとからの贈り物は早めに出しましょう

年賀状は、おそくとも十二月二十二日までに。小包は、せめて十二月十五日までには郵便局の窓口へ出しましょう。

なお、郵便番号が「正しく、はっきり」書いてあれば、都道府県名は、省略できます。

加治木郵便局では、みなさんのご協力を呼びかけています。

大喜び中野小

＜賞状など届く＞

中野小が、第十六回学研教育賞に入賞したことは先月号でお知らせしましたが、このほど表彰式を終え、大きな賞状やメタル、副賞などが同校に到着、全校あげて先生がたのご苦労と努力を喜びあいました。

授賞式に参列した脇和夫同校PTA会長は、次のような手記を寄せました。

【晴れの授賞式に、私も招待され出席いたしましたが、感慨無量なものがありました。

それにしても、中野小が校長先生を中心に挙校一致の態勢でかねがね努力されている結果だと、しみじみ思いました。

統合をひかえ、残り少ない中野小ではありますが、PTAとしてさらに積極的に協力して、中野の教育をいっそう充実発展さしていただきたいものだと、決意を新たにいたしました。】

なお当町では、第九回に柁城小第十二回に加治木中が同賞を授賞これで三校目の授賞となりました

おめでとう百周年

柁城小で記念式典

日の丸の小旗でパレードする柁城小の児童たち

柁城小学校では、明治四年の学制発布によって、これまでの毓英館が第七郷校と改称されて以来、百周年を迎えました。

さる十一月二十三日、全校児童（七百八十人）や校区民、県内外からの卒業生や旧師、それに県・町などの関係者など四百人が記念式典や記念祝賀会に参加して、同校の創立百周年を祝いました。

百周年記念事業には五百二十六万円の基金が寄せられ、コンクリート二階建の記念館や校内テレビ放送施設などが、記念事業期成会から同校に贈られました。

式典の前に、日の丸の小旗を手にした全校児童は、町内の要所をパレードし一時間半にわたって百周年をPRしたあと、先生からお祝いの紅白のお菓子をもらい、母校の百周年を祝いました。

なお、同校の前身でもある毓英館は、今からおよそ百八十七年前の天明四年に塾として開かれたもので、毓英館創設から数えると同校は、すでに百九十年近い歴史をもっていることになります。

当日は、当町と教育姉妹町の伊集院町から六年生三人が特別参加しました。

歳末たすけあい運動で みんなで明るいお正月を

歳末たすけあい運動を広く一般に呼びかけるようになったのは、明治四十一年に救世軍が行なった「慈善鍋」が最初であるといわれます。

この歳末たすけあい運動の目的は、みんなそろって明るいお正月を迎えるために行なわれるものであって、地域住民によって行なわれるたすけあいと、NHKが放送を通じ、行なうNHK歳末たすけあいの二つの方法によって、全国的に展開されています。歳末たすけあい運動によって集められた善意の浄財は地域の恵まれない人々が、少しでも明るいお正月が迎えられるよう社会福祉協議会を通じて年末に越年資金やお見舞いとしておくられています。

町社会福祉協議会では、善意の浄財や品物が年内に配付できるようにするため、十二月二十日までにお寄せくださるよう、協力を呼びかけています。

稚鮎や鯉を放流

＜網掛川漁協＞

網掛川漁業協同組合（組合長西行教・組合員八一名）では、毎年網掛川や小山田川、辺川に鮎と鯉の放流を行ない、釣り愛好者のために奉仕しています。

当組合では、ことしもさる五月に稚鮎百五十キロ（三十万円）を放流したのに続いて十一月には中羽鯉百四十五キロ（五万円）を三つの川に放流しました

ところでシーズンともなると獲物を求める愛好者がふえてきますが、最近では無資格の密漁者が往行して、まじめな人たちの大きな妨げとなっています。

河川の漁は、漁協が発行している鑑札を携行していなければなりません。鑑札は同漁協事務所（仮屋町）または町役場の水産係で発行しています。入漁料は次のとおりです。

▽一本釣　大人百円　中学生五十円　▽投網　二百円　▽かすみ網　五百円

採捕したい人は必ず鑑札の交付をうけましょう。

850余点を展示

― 第13回町美術展 ―

大きく書かれた字に見とれる幼児

第十三回「加治木町美術展」は十一月十日から十二日までの三日間、町福祉センターで開かれました。会場には、八百五十七点（一般百十五点）の作品が展示され、さすがに広いホールも作品でいっぱい。その中を連日、町内の小中校の児童生徒や一般、父兄など参観者の列が続いていました。

ことしの児童生徒の作品について、審査にあたった先生がたは

▽すぐれた作品が多く、絶えず休まず努力した結果が作品に表われている……【習字】

▽テーマも身近なもの、科学的なものなどバラエティに富み、ひとり一人の心が豊かに表現されている…【図工】

と批評しています。児童生徒の入賞者（特別賞、特選、入選）のうち特別賞は、次のとおりです。

▽町長賞
習字　森元みさ子（加中三年）
図画　村田誠（錦江小五年）

▽教育長賞
習字　柳川公寿（加中二年）
デザイン　松葉瀬裕（中野小二年）

▽議長賞
習字　松元月代（加中二年）
工作　篠原英一（錦江小五年）

▽商工会長賞
習字　上園伸隆（加中一年）
デザイン　猪目隆二（加中一）

▽農協長賞
図画　こくしょう・まさひろ（柁城小一年）
習字　平島優子（錦江小三年）

▽南日本書道会賞
習字　藤崎まき子（柁城小六）

▽南日本新聞社賞
習字　有村優子（錦江小三年）
工作　持留ひろゆき（同二年）

二十年で主伐か

菖蒲谷の新誠二さん

時代の要求する木をつくることそのためには、枝打ちを完全にして無節材をつくる。しかも三十年ぐらいで主伐できる林を―。

町内西別府の新誠二さん（69）は十年ぐらい前から、新しい林業経営にのりだした。伐期に達した山を持って楽しむのは昔のこと、いまは伐採して金にし、その金を有効に使うこと。つまり代金は、林地規模拡大や一般土地購入などへの投資にすることだ」という。

試みに昭和三十七年三月、杉を（オビ赤）五百三十本を十五アールに植えた。三年後の四十年四月には県の林地肥培コンクールで、この林地がみごと一等に入賞。あと十年もすると、主伐できるほどの成長ぶりを示している。その林分は、ことしの六月に間伐を行なった。大半が根回り六十センチほどに成長している。

山の手入れに行ったという、新さん夫婦を林地に訪ねると、仕事の手を休めて間伐材を示しながら

「植えてから、たった二十年で金になる時代になった。若いころは考えても見なかったことだ。これからの農業収入は、農業収入よりも林業収入の方が占める率が高くなるだろう…」と、意欲げに話していました。

目標の三十年が二十年で主伐できる林も、今は夢ではなくなった新さんである。

表彰

四元住民課長が法務大臣表彰

このほど東京の文京公会堂で、戸籍制度創設百年表彰の授与式が行なわれ、本町の四元義照住民課長が、法務大臣から表彰されました。

この表彰は、戸籍制度の充実と発展に特に功績があったーとして授与されるもので、鹿児島県からは同氏が、ただ一人受彰したものです。

末永課長に感謝状

県の納税功労者に選ばれる

鹿児島県は、四十六年度の納税功労者を発表し、このほど県議会の全員協議会室で感謝状の贈呈式を行ないました。

数多い団体功労者のなかで、本町役場の末永豊税務課長は、個人として特に功労があったとして、県下でただ一人選ばれ、県知事から感謝状が授与されました。

広報かじき入選

広報功労者に向江係長

四十六年度の県広報研修大会が指宿市で開かれ、その席上、広報コンクールや広報功労者の授与式が行なわれました。

今回の広報功労者には、本町の向江巧文書係長ら十人が選ばれ、県知事から表彰されました。またコンクールに出していた「広報かじき」と「広報写真」がそれぞれ入選、町の広報紙は通算八回目の授賞となりました。

今月の納税　固定資産税（第四期分）

スポーツ

西別府街道ひた走り！

第三回ロードレース大会

第三回ロードレース大会は十一月二十三日に行なわれました。参加者は小中学校生、一般など六十六人で、主会場の加中グラウンドから錦江橋、西別府街道折返し区間を力走しました。

▽小学校の部（二キロ）

①谷山浩（錦江）②岩元章二（竜門）③石合浩二郎（柁城）

▽中学一年の部（三キロ）

①鶴政行（永原）東川内洋一（竜門）③内村義行（竜門）

▽中学二、三年（四キロ）

①小宮路行春（永原）②石野金治（竜門）③蓬原千春（永原）

▽一般の部（七キロ）

①信時忠明（南日本デーリー）②上野章一（明治乳業）③向江豊（町役場）④米沢重則（同）⑤税所聖勝（明治乳業）

地元優勝ならず

第四回義弘公奉賛剣道大会

第四回義弘公奉賛剣道大会は十一月二十三日に加治木中屋体で開かれ町内外から二十二チーム（中学十三・高校九）が出場しました招待校として伊集院町の土橋中、吉田村から吉田北中が来町しました。

▽中学校の部

①隼人中　②牧之原中　③土橋中

▽高校の部

①蒲生高　②加治木工　③隼人工

スパイダーが優勝

一般社会人ソフトボール

一般社会人ソフトボール秋季大会は、十一月二十日（日）加治木中グラウンドに十六チームが参加して行なわれました。成績は、次のとおりです。

①スパイダー　②町役場A　③あすなろ会・九州電力

香典返しを寄付

町社会福祉協議会へ

香典お返しのかわりに、ご寄付をいただきました。厚くお礼申しあげます。

金額	ご遺族　故人
五千円	宮田ケ平　坂元藤夫（妻ツルノ）
参千円	上木田　大脇正志（母シナ）
二千円	朝日町　福元栄熊（妻アサ）
一万円	中福良　豊村恒男（父利男）
五千円	茶碗屋　川原　正（母久）
四千円	赤谷　鶴田義直（母シヲ）
五千円	於里　新　栄蔵（父喜太郎）
一万円	茶碗屋　川原ヨシ子（夫則秀）
二千円	小陣　薬丸久子（夫清敏）
二千円	高井田　西村　薫（父休次郎）
五千円	諏訪　川上　仁（母モト）
五千円	西汐入　宝蔵ユキエ（夫松二）

▽…十二月一日までのご寄付を掲載しました。

三行メモ

デコレーション・ケーキをつぶさずに切るには、包丁を熱湯で温め布でふいて切る。

随想 25

人と物と魂と

曽木隆輝

晩秋ともなれば私の相手は、人と物と魂になって忙しい。先日、伊集院の妙円寺参りに議長教育長、島津文化協会長、渡辺体育審議会長や今屋課長、湯川主事、それに加治木中や竜門中の柔剣道選手らと参加した。県下の学生生徒や関ヵ原からも十万人近い集まりだ。私は祝辞の中で「鹿児島の若人がこうして心身をきたえることは結構なことで、義弘公の霊も喜ばれるでしょう」とのべた。県護国神社の祭典町の追悼式とつぎつぎに魂を相手の行事で、空気の冷たさも加わって心身、引きしまるような昨今だ

錦江湾美化の会で、沿岸市町村長と巡視艇で湾内をまわった。古江、垂水沖が一番きれいで、喜入も上々。きたないのは山川港と鹿児島湾。加治木沖は、まあまあ…といったところ。生活廃棄物の投入は困ったことだ。

姶良郡西部の消防組合でつくる消防署の場所と、お金に連日連夜苦労した。県や自治省に猛運動して、お金の見とおしがやっとつくと、予定の場所は話しがつかぬ。やむなく町内の他を持ちだしたらある町側からドロボウ呼ばわりされた。ジッとこらえ元点にもどって再交渉し、どうにかまとまる。人と物とのつながりの解決は、実にむつかしい。縦貫道の側道や総合グラウンドの用地もまたしかり

気がイライラしているとき、加治木中の生徒が、たんせい込めて作った菊の懸崖（けんがい）ひと鉢を贈ってくれた。急に室が明るくなり、気も晴れ晴れする。文化祭や美術展で心を養うこともでき楽しい催しは、ありがたかった。

浜村や岩原、そのほかで部落運動会が行なわれ、部落民こぞって一日じゅう戸外で楽しんでおられる様子を見て、物にこだわらぬ無邪気さに打たれる。柁城校の百周年記念祭も盛大に行なわれた。私はお祝いの歌を贈って児童たちに歌ってもらう。

古い友人のざる大使から「戦時中ドイツで、君の下で働いていたドイツ婦人が来日するので同人を知る友人たち十五、六人で歓迎会を開くから、ぜひ上京しろー」との手紙がきた。暇をもらって上京。当時の若者たち今は六十前後の友人たちが集まって、ばあさんになったドイツ婦人を中心に話しがはずんだ。何年たっても人の心のつながりは、うれしいものだ。

……